

## 滝野川の種苗業と八幡神社

江戸時代から昭和の初めまで、滝野川は農業と種苗業が盛んな町でした。当神社の社務所は終戦直前まで、旧中山道に面した滝野川三軒家の種子問屋が中心となつて大正五年に設立した東京種子同業組合の会合場所として利用されてきました。組合ではこの会合で滝野川ごぼりや人参、練馬大根などの野菜の種子相場の協定をしたり、東京府農事試験場に試作を依頼していた原種審査会表彰をしたりしていました。

### 伝統野菜の復活栽培

令和四年、創建八百二十年の奉祝事業の一つとして、境内で「滝野川ごぼり」「滝野川人参」「滝野川かぶ」の栽培を始めました。境内の一角で、塩ビ管やプランターを使つての栽培です。また、地域の皆さまや保育園・学校等にも種をお配りして、伝統野菜を育てていただいています。伝統野菜の栽培が地域に広がることを願い、十二月にはかぶの品評会を行います。

### 滝野川の地名の由来

神社近くを流れる石神井川は、かつては急流が蛇行し轟轟と音を立てて滝のように流れる川であったことから、石神井川もこの辺りは「滝野川」と呼ばれていました。石神井川の別称が地名になつたということですが、「源平盛衰記」には一一八〇年八月に源頼朝が滝野河(川)に陣を取つたとの記述があり、少なくともこの書物が書かれたとされる七百年以上前のその前から使われている古い地名であることがわかります。

現在の石神井川は桜の名所ですが、かつては紅葉の名所で、歌川広重の名所江戸百景などの浮世絵にも描かれる景勝地でした。



カブリーナ

令和4年に誕生した  
滝野川かぶのマスコット  
キャラクターです。



カブリン

## 瀧野川八幡神社

東京都北区滝野川 5-26-15

TEL. 03-3916-2890



## 瀧野川八幡神社





スマートフォンで  
境内の様子をご覧  
いただけます。  
(2020年10月撮影)

神社名 瀧野川八幡神社

鎮座地 東京都北区滝野川五丁目二十六番十五号

祭神名 品陀和氣命 (ほんだわけのみこと・応神天皇)

御神徳 勝運、成功勝利、立身出世、良縁成就、技芸・武芸、教育・学問、  
交通安全、厄難除け、子孫繁栄、家運隆昌

御由緒概要 創建は、鎌倉時代前期の建仁二年(一一〇二年)といわれていますが、「江戸誌」によりますと文治五年(一一八九年)に源頼朝が勧請したとの記述があります。いずれにしても古くより祀られ、八百年以上もの歴史を有する神社であります。

境内は東側を鎌倉街道(中道(なかつみち))に面しています。社殿の裏手からは縄文時代後期の住居址が発見されており、考古学的にも貴重な遺跡に立地しています。神仏分離以前は石神井川畔にある金剛寺が別当寺でした。現在の本殿は総擲造り、明治十七年(一八八四年)に改築されており、拝殿は大正十一年(一九二二年)に修築されています。

### 年中の祭典と行事

例大祭	九月十五日
中祭	一月十五日 五月十五日
月例祭	毎月一日、十五日
末社例祭(播種祭)	三月の最終日曜日
収穫祭(滝野川ごぼう)	十月上旬
歳旦祭	一月一日
節分祭	二月三日
祈年祭	二月十七日
夏越大祓	六月三十日
新嘗祭	十一月二十三日
年越大祓	十二月三十一日

### 境内末社

境内右奥には、稲荷(倉稲魂命)・富士(木花咲耶姫命)・榛名(埴安姫命)の三柱を祀る末社があります。

富士・榛名については、明治以降に祀られたようですが、詳しい年代は不明です。種苗業を営む人々を中心に神社を盛り立てていた時代に、五穀豊穡を願って、富士・榛名の二柱を勧請したものと考えられます。

令和4年に誕生した  
滝野川ごぼうと滝野川  
にんじんのマスケット  
キャラクターです。



滝ぼう きゃろ美

# 滝野川の種苗業と八幡神社

江戸時代から昭和の初めまで、滝野川は農業と種苗業が盛んな町でした。当神社の社務所は終戦直前まで、旧中山道に面した滝野川三軒家の種子問屋が中心となつて大正五年に設立した東京種子同業組合の会合場所として利用されてきました。組合ではこの会合で滝野川ごぼうや人参、練馬大根などの野菜の種子相場の協定をしたり、東京府農事試験場に試作を依頼していた原種審査会表彰をしたりしていました。

## 伝統野菜の復活栽培

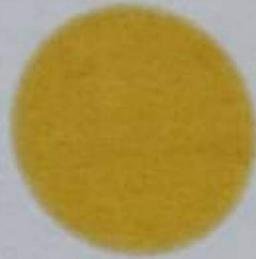
令和四年、創建八百二十年の奉祝事業の一つとして、境内で「滝野川ごぼう」「滝野川人参」「滝野川かぶ」の栽培を始めました。境内の一角で、塩ビ管やプランターを使っての栽培です。また、地域の皆さまや保育園・学校等にも種をお配りして、伝統野菜を育てていただいています。伝統野菜の栽培が地域に広がることを願い、十二月にはかぶの品評会を行います。

## 滝野川の地名の由来

神社近くを流れる石流が蛇行し轟轟と音流れる川であったこと、の辺りは「滝野川」、石神井川の別称が地とですが、「源平盛衰」八月に源頼朝が滝野河との記述があり、少なかれたとされる七百から使われている古いかります。

現在の石神井川は桜のは紅葉の名所で、歌川などの浮世絵にも描か





末秋例祭・播種祭



令和七年三月



令和七年三月廿一日



心 境 祭 社

